



増戸小だより

Tel 042-596-0240

Fax 042-595-1022

あきる野市立
増戸小学校
No. 2
令和7年4月30日

自分の思いを、正しく相手に伝えるために

～ヤバイ言語環境にマジで、かつガチに取り組む～

校長 時計 祐司

子供たちの給食の様子を見ると、「マジでヤバイ。」「ガチで全然うまい。」といった声が聞こえます。「マジでヤバイ」にいたっては、給食がおいしいと感じているかどうか表情が見えなければ分かりません。これらの会話から、自身の感情を表現する言葉の選択が正しくできていないというコミュニケーション能力の課題が見えてきます。ここで確認したいことは、子供たちが「美味しい」という言葉を知っているか、またその意味を正しく理解しているか、という点です。「美味しい」という言葉を知らなければ、そもそもその感情を表す言葉の選択肢に「美味しい」が出てこないのです。また、「マジ」は「本気」と書きます。けれど、子供たちが表現したい思いは「本当」の意味のようです。「ガチ」は相撲用語の「真剣勝負」の意味です。「ガチでうまい。」を訳すと「真剣勝負でおいしい」となります。こちらも、「本当に」の意味と混同しているのでしょう。何となくの言葉のイメージで、意味もよく分からず言葉を使用している子供が非常に多いのです。「ヤバイ」は「すごい」のイメージでしょうか。



▲体育館を見上げれば、見事な山桜
令和7年4月8日 撮影

以前、「最悪。」が口癖の4年生が、作文に感情を「さいやくでした。」と書いていました。指導すると、本人は「さいやくじゃないの。」と驚いていました。「最も悪いと書いて最悪」という言葉の意味も分からず、何となく耳に入ってきた言葉のイメージで感情を表現していたことになります。驚いたことに、そのクラスには数名「さいやくだと思っていた。」という子がいました。

子供は、知っている言葉、または耳にした言葉で自身の思いや考えを相手に伝えようとします。それならば、子供に関わる学校が、そして御家庭や地域が正しい言葉でコミュニケーションをとることは、子供たちの言語環境を整え、「おいしい」をより具体的に伝えようとする技能を身に付けた、豊かな感情表現ができる子供を育てることにつながります。今年度、増戸小学校における校内研究の研究主題が、「自分の考えをもち、すすんで伝え合うことができる児童の育成」に決定しました。研究の成果は、児童の変容の姿で立証されます。日常で正しい言葉を使えることが理想ですが、まずは授業内での話し合い活動の中で、子供たち一人一人が感じたこと、考えたことを相手に伝わるように正しく表現できることを目標に指導していきます。

かくいう、私も予定を聞かれたときに「全然大丈夫。」と、間違った返答をすることが多くなってきました。教師が手本となるよう、気を付けていきます。